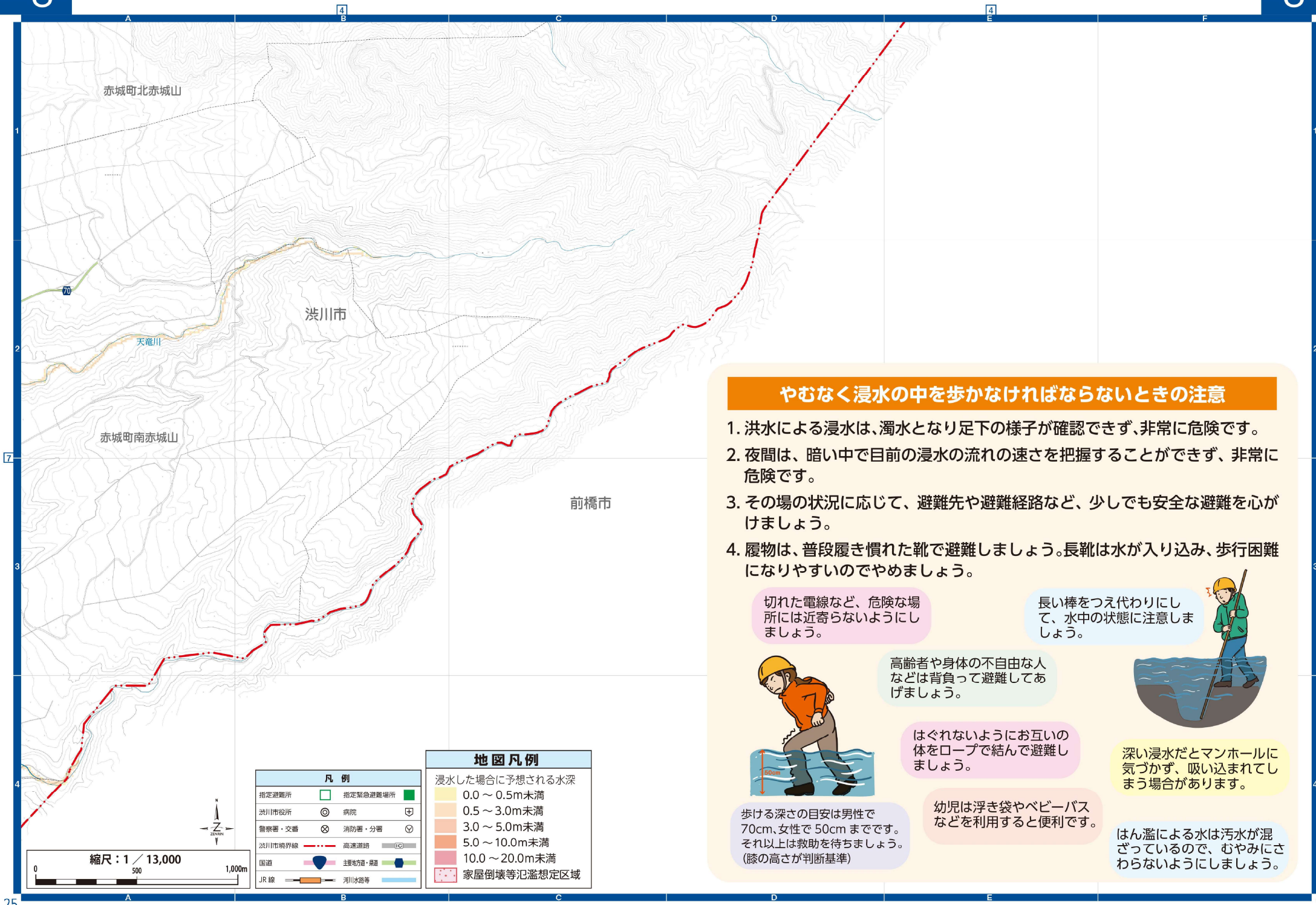




やむなく浸水の中を歩かなければならないときの注意

1. 洪水による浸水は、濁水となり足下の様子が確認できず、非常に危険です。
2. 夜間は、暗い中で目の前の浸水の流れの速さを把握することができず、非常に危険です。
3. その場の状況に応じて、避難先や避難経路など、少しでも安全な避難を心がけましょう。
4. 履物は、普段履き慣れた靴で避難しましょう。長靴は水が入り込み、歩行困難になりやすいのでやめましょう。

切れた電線など、危険な場所には近寄らないようにしましょう。

長い棒をつえ代わりにして、水中の状態に注意しましょう。



高齢者や身体の不自由な人などは背負って避難してあげましょう。

はぐれないようにお互いの体をロープで結んで避難しましょう。

歩ける深さの目安は男性で70cm、女性で50cmまでです。それ以上は救助を待ちましょう。(膝の高さが判断基準)

幼児は浮き袋やベビーバスなどを利用すると便利です。



深い浸水だとマンホールに気づかず、吸い込まれてしまう場合があります。

はん濫による水は汚水が混ざっているの、むやみにさわらないようにしましょう。